

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

Q. 中学生当時、「全体学習(みんなで語り合う人権学習)」をどう感じていたか?

あの頃の全体学習が今にどう活かされているかってことなんですが、きっとあの場所でみんなでいるんなことを考え、意見を言い合ってたことが、今の私の基礎を作っていると思います。

13歳から15歳の多感な時期に、自分の意見を人の前、しかも大勢の前で話したことで根性ができたと思うし、自己主張の力もついたと思います。私は活発な方ですが、最初の頃は、周りの子たちに発表したり、自分のことを話すことで、どう思われるか不安でしたが、そのうちに、恥ずかしさや不安な気持ちより、「私の気持ちや思いを伝えたい」と思うようになってた気がします。

「自分がどう思われるか」

いわゆる同調圧力というもの。

「周りと同じようにしなければ」

もしかするとそれは、日本独特の文化のようなものかもしれません。

でもその中で、息苦しさを感じている人がいることも確かです。

ましてや、多感な年頃の子どもたちにとっては、この上なく息苦しいものと言えるかもしれません。多様性を進めている現代社会にとって、この相反する二つの命題は、大きな問題提起です。学校にはびこるイジメや不登校の問題も、このあたりと密接に関係しているのではないのでしょうか。

Q. 十数年経った今、どう思っているか?

今職場で、人を惹きつけて話すのが上手と言われるのも、きっとあの時、全体学習で身につけたものが、大いにあると思います。同僚や職員だけでなく、患者さんとのコミュニケーションをとる時も聴くこともそうですが、自分のことを話すということに躊躇しないのも、あの時に慣れていたからだなと感じています。

あと、答えはひとつではない。人にはいろんな思いがあって、人と一緒である必要はないとも、あの頃の学習があったから今思っているのかもしれない。自分と違う意見の人に壁を作るのではなく、そんな考え方もあるんだなって考えられる力をあの時につけてもらえたのかもしれない。

文章力がなくて、本当に申し訳ないですが、これが私の思う全体学習かなって思います。

お忙しいとは思いますが、もお若いんで体調に気をつけて、無理せんようにね。

また、一緒に飲みましょう。

感じるものが一つあります。

それは、「全体学習(みんなで語り合う人権学習)」に取り組んでいくと、どうやら「人が好きになる」らしいということです。そして、「自分を認めたくなる」ということ。また、これら教え子の多くが、人と関わる仕事に、「選んで就いている」という事実。

デジタル社会が進んでるとはいえ、人は人間社会で生きています。とすれば、この人間社会で生きていく術を身につけることは必須となります。では、いつ、どこで、どのようにして身につけるのか。その点において「みんなで語り合う人権学習」は有効だということです。

今号は、前号までを回答してくれた人物の妹さん。きょうだい揃って、楽しい酒を飲み交わしたいものです。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ代表

